## 美感の智恵 ・・



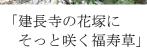
#### by 寺庭婦人

福寿草は春を告げる花です

建長寺の職員さんが 「今年は綺麗に咲いたんですよー」 と教えてくれました

#### 何年か前

観光客が旅の勢いで福寿草を根こそぎ取っていってしまい 「建長寺の花塚に それ以降咲かなくなってしまったのだそうです



その後ゆっくりゆっくり時間をかけて また建長寺に花を咲かせてくれたのですね

種が落ち 芽を出し 花を咲かせる

花にしてみれば 縁あって咲いた場所が我が家 周りに咲く花は家族 身勝手な人間によって家族の元から引き裂かれてしまう花の気持ち…

可哀想です

自然はなるべく自然のままに…ですね

# 天目山茶

#### 薄茶席 摩利支尊天堂 野点席 庫裏 用炉裏 待合

※雨天時等変更の場合あり



会期 平成30年6月10日(日) 午前9時~午後3時 会場

栖雲寺境内

御香料 1,000円

※先着100名限定

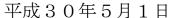
### 栖雲寺たより

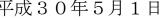




第26号

発行日





寒かった冬が終わり、天目山にもようやく春がやってまいりました。活動の 報告と今後の予定をお知らせいたします。



#### 摩利支天大祭 厳修

4月15日(日)に、栖雲寺の鎮守 (ちんじゅ=お寺を護る神様) である 摩利支天様の大祭が行われました。



摩利支尊天は陽炎(かげろう)の神格化であります。大祭の時間に合わせる ように濃い霧に包まれた天目山は、まるで陽炎の化身が姿を現したかのよう な、そんな幻想的な景色でした。



#### 地域社会との交流

一年の大半を鎌倉で過ごす通いの住職。それでも地 域社会に貢献するにはどうしたらよいか、可能な限り つながりを持とうと常に心がけております。栖雲寺の ある甲州市大和町、そこにある大和小学校にも、様々

な協力をさせていただいております。4月22日の「ふるさと学習会」では、 1時間の特別授業を受け持ち、先生を勤めてまいりました。全校児童に向かっ て話すのは意外に難しく、たくさんのイラストや仏具、だるまの置物などを 使って、低学年でもわかるような話しをさせていただきました。共に笑って、 共に学んで、こちらも本当に楽しかったです。

今後は夏休み天目山寺子屋勉強会・3年生は遠足で 栖雲寺まで歩き、その後のお寺見学と坐禅・6年生は 修学旅行の建長寺境内案内なども予定。鎌倉にいても 少しは地域のお役に立てたらなと考えております。

臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺 住職 青柳真元

〒409-1201 山梨県甲州市大和町木賊122 TEL 0553-48-2797 http://www.tenmokusan.or.jp [栖雲寺]で検索 ブログ毎日更新



## 行営流水 行脚で見た仏心



(全2回)



先日その檀家さんが亡くなり、葬儀に出頭するといろいろ思い出しまし た。隠していたわけではありませんがあえて言う機会もなく、これまで本 当のことを言えずにいた思い出です。

今から17年前、私は鎌倉建長寺での僧堂生活にお暇をいただき授業寺 (教えを受けて育ったお寺)である上九一色村(現在は合併して甲府市) の永泰寺に戻りました。その僧堂を出るという一つの節目に、禅の修行と して、また思い出づくりとして鎌倉から永泰寺までの道のりを歩いて帰り ました。麻の雲水衣に網代笠をかぶり、足はわらじ履きで雲水の格好で

す。投宿場は全て修行時代にお世話になったお寺さん。事前にお願いし一晩お世話になりま した。初日は横浜、二日目伊勢原、三日目津久井、四日目山梨に入って上野原、五日目は甲 府のお寺に投宿させていただき、六日かかって永泰寺に到着しました。八月末の炎天下、あ るいは大雨の中。早朝から暗くなるまで歩いた日もあります。腰には、事前に作り溜めてお いた替えのわらじを三足ぶら下げて、破れたり切れたりすると新品に取り換えて歩きまし た。わらじで歩き慣れていたとはいえ、足にはいくつものマメができ、それがつぶれて山梨 に入った四日目頃には一歩一歩を踏み出す足に激痛が走り、何度も何度もやめてしまおうと いう衝動に駆られました。それでもなんとかふんばりぬいて、最終日には無事に永泰寺にた どり着くことができました。

ここからは初めて打ち明けることです。六日目に甲府盆地から上九一色村へ向けての峠を 登り始め、寺まで残り二里ほどの所で軽自動車に乗った永泰寺の檀家さんに声を掛けられま した。その檀家さんは私が鎌倉から歩いているのを知っていたのか、たまたま通りかかった ら永泰寺の弟子を発見したのか、お亡くなりになった今となってはもうわかりませんが、と にかく声をかけてくれたのです。

「おい、どうした。足痛そうに歩いてるけど乗ってけ。」 「鎌倉から歩いて来まして、もうあと少しだからこのままがんばります。」 「何言ってんだ。そんなに足引きずってまともに歩けてねえじゃねえか。ほら乗ってけ。」 「お気持ちはうれしいけど、ここまで来て乗るわけにいきません。痛いけど大丈夫です。」 「ダメだダメだ、見てられねぇ。寺のちょっと手前で降ろしてやるから、とにかく乗れ。」

そんなやり取りを何度か繰り返し、その強引なまでの誘いに根負けした感じで、私は峠の 先までの約一里半ほどをその檀家さんの車に乗りました。「乗せてもらってありがとうござ います。足が限界だったので本当に助かりました。」と口では言ったものの、車の中では、 あぁ乗ってしまった、という敗北感と後悔の念。そして、もし車に乗った事を誰かに話され たらかっこ悪い。そんなことを考えていました。

長いトンネルを抜けて村に入ったところで車から降ろしてもらい、おかげで予定より早く なってしまったために30分ほど休み時間調整をし、残りは永泰寺ま で歩き時間通りに到着しました。門前では十人以上の檀家さんが私 を出迎えてくれました。そこにいるみんなは全て歩いてきたと思っ ています。「禅の修行は大変なものだ、よく頑張った。」「鎌倉か ら歩くなんてすごい、お疲れ様。」そんなねぎらいの言葉をみんな からいただくと、そこでは達成感や無事の安心感よりもむしろ罪悪 感に見舞われた、そんな記憶が鮮明に残っております。



そこに偽りがあっても感動してくれる人がいる。もし仮に歩ききっていたとして、結果は 何か違っただろうか・・・。きっとそれは自己満足でしかなかったのかもしれません。それ でもその瞬間は、なんでたまたま通りかかってしまったのか、確かに身体は限界でしたがな

んで断ってるのに無理やり乗せるんだ、徹底して断ればよかった、そ んな乗せてくれたことに対する感謝どころか逆にその檀家さんに邪魔 をされたのだと、恨みの気持ちすら抱いておりました。その時のこと が本当に有り難かったと感謝の気持ちに変わったのは、かなり後に なってからのことです。和尚としてたくさんの人と接し、建長寺に勤 め、管長様という崇高で偉大な和尚を間近で見る良縁に恵まれたおか げだと思います。周りの人に気づかせてもらったのだと思います。



住職 青柳真元 合堂

次号②へ続く・・・

9月1日の発行を予定しております。



今年の枝垂桜

例年ですと、花の重さで枝が地面まで着 きそうな程に咲く枝垂桜。気候の影響か、 鳥が蕾を食べたのか、今年は花が咲かない まま葉っぱだけが大きくなってしまい、お 世辞にもきれいとは言えない満開でした。

テレビ局から開花状況の問い合わせと取 材依頼をいただきましたが、遠路来山され て失望させるよりは次回のお楽しみにと取 材を断りました。来年に期待しましょう。

#### 臨済宗の和尚知っていますか? ③ 夢窓疎石 (夢窓国師)

私の授業寺(教えを受けて育ったお寺)である永泰寺の開山は夢窓疎石で す。現代に例えれば官僚の事務次官のような超エリート和尚でして、山梨県で は信玄公の菩提寺である恵林寺、鎌倉では瑞泉寺、京都でも世界遺産の天龍寺 や金閣銀閣の本山相国寺など、誰もが知っているお寺を開山し、幕府の政や朝 廷にまで影響を及ぼした禅僧です。七人の朝廷から国師号を賜り七朝帝師とも 称されています。

京都に行ってからの夢窓国師を批判する方もいますが、 もともとは隠遁生活を切望し、大寺の住職になることを 嫌っていました。恵林寺にいた時も甲斐国での布教教化に 尽力されています。しかしその高僧ぶりを幕府や朝廷など の権力者が放っておかず、望まずとも京の都、政の中枢へ 連れ出されたのでしょう。お寺に行く時は、例えそれが普 通の観光であっても、開山和尚を少し学んでからお参りさ れると、また違った見方もできて感動が得られますよ。

鎌倉瑞泉寺の夢窓国師像